

様式第 10

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
愛知県	一宮市	平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 31 年 3 月 31 日	平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 31 年 3 月 31 日

1 目標の達成状況  
(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成24年度)	目 標 (令和元年度) A	実 績 (令和元年度) B	実績 /目標	
排出量	事業系 総排出量	21,842t	14,302t	26,894t	-67.0%
	1 事業所当たりの排出量	1.32t	0.87t	1.69t	-82.2%
	生活系 1人当たりの排出量	221kg/人	162kg/人	212kg/人	15.3%
	合 計 事業系生活系総排出量合計	127,230t	108,827t	121,256t	32.5%
再生利用量	直接資源化量	20,112t	33,640t	12,780t	-34.9%
	総資源化量	22,943t	37,548t	16,866t	-25.4%
最終処分量	埋立最終処分量	16,010t	13,417t	13,639t	524.2%

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成24年度)	目 標 (令和元年度) A	実 績 (令和元年度) B	実績 /目標	
総人口	386,447 人	375,264 人	385,160 人	—	
公共下水道	汚水衛生処理人口	166,642 人	257,340 人	190,637 人	26.5%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	43.1%	68.6%	49.5%	25.0%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	75,266 人	92,145 人	78,723 人	20.5%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	19.5%	24.6%	20.4%	19.0%
未処理人口	汚水衛生未処理人口	144,539 人	25,779 人	115,800 人	24.2%
		37.4%	6.9%	30.1%	24.0%

※目標未達成の指標のみを記載。

## 2 目標が達成できなかった要因

### 【ごみ処理】

#### ○排出量

目標が達成できなかった要因として、事業系ごみについては、景気の上昇に伴い事業活動が活性化したこと、排出事業者のごみ減量・資源化が進んでいないこと、分別の徹底がされていないことによる産業廃棄物の混入によるものと考えられる。生活系ごみについては、事業系ごみと同様に景気の上昇に伴い、消費活動が活性化したこと、終活や施設入所などの生活スタイルの変化による家財等の整理、リサイクル可能な古紙、プラスチック容器包装が分別されずに排出されていることによるものと考えられる。

#### ○再生利用量

目標が達成できなかった要因として、スーパー等でのリサイクルBOXの設置による回収、新聞販売店による新聞紙の自主回収が進んだことによるものと考えられる。

#### ○最終処分量

目標が達成できなかった要因として、排出量に対する割合は目標を達成していることから、事業系生活系総排出量が予測よりも減少しなかったことによるものと考えられる。

### 【生活排水処理】

#### ○公共下水道

目標が達成できなかった要因として、公共下水道の整備済み区域内の人口は、目標の257,340人に対して、261,229人となり、目標を上回っているが、下水道の接続率が73%であり、未接続世帯が数多く存在することによるものと考えられる。

#### ○合併処理浄化槽等

目標が達成できなかった要因として、世帯の高齢化などの影響で、設置補助はあるものの個人負担が増したことにより、単独浄化槽等から合併浄化槽への転換が進まなかったことによるものと考えられる。

#### ○未処理人口

目標が達成できなかった要因として、上記のとおり公共下水道人口および合併浄化槽等人口が伸び悩んだことによるものと考えられる。

## 3 目標達成に向けた方策

### 【ごみ処理】

目標達成年度 令和12年度まで（一般廃棄物処理基本計画目標年次）

ごみ処理に関する普及啓発（市広報、ウェブページ、SNS等による周知）を継続するとともに、未達成であった各目標の改善につなげるため、以下の施策を重点的に推進する。

#### ○排出量（事業系）

・搬入物の展開検査を実施し、排出事業者のごみの分別状況を調査することで、収集の際の分別を促すよう収集運搬業者への助言・指導を行う。

- ・ごみの分別の周知を図ることにより、事業系一般廃棄物以外の産業廃棄物の持ち込みを抑制することで事業系排出量の減量を行う。
- ・資源となる紙類や食品廃棄物を排出する事業者に対し、再資源化業者の紹介をするなどして、資源化するよう助言を行う。

○排出量（生活系）

- ・食品ロスの削減、生ごみの水切り実践についての啓発を行い、生ごみの減容化を図る。
- ・可燃ごみ組成調査から、資源物の混入割合を把握し、資源物の分別の周知を図る。

○再生利用量

- ・民間事業者による資源回収量を調査することで市内の資源化量の把握に努めるとともに、引続き市広報、ウェブページ、SNS 等による普及啓発を強化する。

○最終処分量

- ・排出量を減らし、再生利用量を増やすことで最終処分量の減少に繋げる。

【生活排水処理】

目標達成年度 令和 6 年度まで （一宮市循環型社会形成推進地域計画（第 3 期）目標年次）

○公共下水道

下水道接続率の向上を推進するために、整備済地域での戸別訪問の実施や、広報誌・ホームページ等による PR を行うことで、より一層の公共下水道の普及促進に努める。

○合併浄化槽等

普及促進のためのパンフレット等の作成、該当地域の町内会でパンフレットの全戸回覧の実施、広報誌・ホームページ等による PR、またイベント会場や市出張所などでの PR を行うことで、より一層の合併浄化槽の普及促進に努める。

○未処理人口

公共下水道や合併浄化槽等の普及に努めることにより、未処理人口の減少に繋げる。

(都道府県知事の所見)

【ごみ処理】

事業系の総排出量及び 1 事業所当たりの排出量について非達成であった。事業系の総排出量については、景気の拡大に伴い事業活動が活性化したこと、排出事業者のごみ減量・資源化が進んでいないこと、分別の徹底がされていないことによる産業廃棄物の混入によるものと考えられる。

生活系 1 人当たりの排出量について非達成であった。事業系ごみと同様に景気の拡大に伴い、消費活動が活性化したこと、生活スタイルの変化による家財等が整理されていることによるものと考えられる。

事業系生活系総排出量について非達成であった。生活系の総排出量は減少しており、事業系の総排出量が目標を上回ったことが要因で

ある。

再生利用量について、直接資源化量及び総資源化量とも非達成であった。直接資源化量については、民間事業者が設置する古紙回収コンテナボックスの増加により市民の古紙排出先の選択肢が増えたことや新聞販売店による新聞紙の自主回数が進むなど古紙類の収集量が減少したことが要因と考えられる。

最終処分量については非達成であった。これは、ごみの排出量に対する割合は目標を達成しているものの、事業系生活系総排出量の目標を達成できなかったことに伴い、埋立最終処分量が増加したことが要因と考えられる。

以上のことから、事業系の総排出量及び1事業所当たりの排出量、生活系1人当たりの排出量、事業系生活系総排出量合計、再生利用量及び最終処分量の目標が非達成となったと推察される。

今後は、事業系ごみの発生抑制、資源回収の向上に向けた方策等、目標の達成に向けた施策等を着実に推進し、さらなる循環型社会の形成推進に努められたい。

#### 【生活排水処理】

公共下水道については、整備自体は進んでいるものの供用開始区域内の下水道接続率が低迷していることが課題となっている。

また、合併処理浄化槽等については、単独処理浄化槽又は汲み取り便槽からの転換に対する補助制度があるものの個人負担が大きいことが要因となって、目標を達成できなかった。

生活排水処理の普及拡大については、環境保全に対する意識を高め、市民と行政が一体となって進めていくことが重要である。下水道供用開始区域内外で、それぞれ改善計画書に示す広報・啓発活動を積極的に推進することで、目標を達成するよう努めていただきたい。

令和元年度に、一宮市は汚水適正処理構想において、下水道計画区域を大幅に縮小したことに伴い、浄化槽整備区域を拡大した。今後は、浄化槽設置費補助の拡大等も検討しつつ、単独処理浄化槽又は汲み取り便槽からの転換促進を強化していただきたい。